

平成 30 年度・令和元年度
日常調査報告書

テーマ

1. 「将来の農業について」
2. 「雨水対策の調査研究」

令和 2 年 3 月

高根沢町議会建設産業常任委員会

建設産業常任委員会日常調査報告書

建設産業常任委員会は、「将来の農業について」「雨水対策の調査研究」と2つのテーマについて平成30年度・令和元年度において調査研究を重ねてまいりましたので、次のとおり報告します。

「将来の農業について」スマート農業の調査研究

日本の農業が抱えている課題の中には後継者不足、食料自給率の低下などがあるが、しかしその一方では、ハイテク技術、最先端の農業技術などの開発も進んでいる。

これからの農業の進化を知るために「スマート農業の調査研究」を実施し平成30年10月11日に幕張メッセで開催された「農業ワールド2018」を視察してまいりました。

「農業ワールド2018」は6次産業化・農業資材・次世代農業の3つのブースに分かれ、次世代農業のブースでは、ドローン、農業IT、農業ロボット、中でも再生可能エネルギーとITを駆使した植物工場の出展は、目を張るものがあり「農業ワールド2018」の視察は業界の進化を見ることが出来ました。

2018年10月にTBSテレビ：日曜劇場「下町ロケット」という番組の「宇宙（そら）から大地」編ではGPS機能を利用した無人農業ロボットを研究する内容で、無人トラクター、無人コンバインが活躍する番組が放映されスマート農業への関心度は高いと感じました。

「栃木県の動向について」

昨年12月、本県では福田知事を先頭に民間団体・県議会等とで、観光・経済分野、農産物の輸出促進のトップセールスとしてベトナム・タイへ訪問。

また、新年度予算編成においては「Society5.0時代を見据えた様々な分野での未来技術等の活用」という話もありました。もちろんその分野にはスマート農業も含まれています。

「宇都宮白楊高校高根沢農場でのスマート農業体験」

昨年12月20日宮内庁御料牧場宇都宮白楊高校高根沢農場水田圃場で「スマート農業実践授業」が開催され、栃木県立宇都宮白楊高校農業経営科1年生40名が参加し、無人で走行するロボットトラクターの実演を見学するなど、最先端技術を取り入れたスマート農業の一端を体感しました。見学に先立ち、担当者が情報通信技術（ICT）を活用したスマート農業全体の状況を解説。ロボットトラクターの開発状況や今後の情勢、オート田植え機、産業用ドローンなど、スマート農業による省力化、効率化の大きな可能性について解説。衛星利用測位システム（GPS）を搭載したトラクターが無人で動いて作業する様子を見学。

「今後考えられること」

現在の若者と呼ばれる人達が農業に従事する流れが進むよう自治体が活発な取り組みを行うこと。

「町への提言として」

「補助金」とはその事業に対して、実施のサポートの為に給付するもので、例えば「スマート農業の普及による農業の生産性の向上」という政策目標があれば、場合によっては農林水産省管轄のものだけではなく、経済産業省、総務省、中小企業庁などの補助金が活用できる場合がありますので、幅広く情報収集をして農業者へ情報の提供を望むものです。

「雨水対策の整備について」 雨水対策の調査研究

近年、気象環境の変化により集中豪雨の多発や局地的豪雨化の傾向があり本町でもその対応が課題となっています。

「プラスチック製雨水貯留槽浸透施設ジオプール工法」を雨水対策の調査研究ということで、令和元年10月21日（月）に薬局店舗新築工事に伴う雨水施設に環境配慮型プラスチック製雨水貯留槽浸透施設を使用した施工現場として茨城県東茨城郡城里町へ視察をしてまいりました。

また、茨城県つくばみらい市にある同製品の製造工場を視察してまいりました。

製品と工法についての利点は、リサイクルフィルム材を原材料に用いて、省資源・資源有効活用とした製品で施工後の空隙率は約 93%と高く 1 日に約 200 m³の組み立てが可能でコンクリート構造に比べ費用が抑えられるという点です。

「本町での施工例」

本町での施工例については、高根沢図書館中央館駐車場と類似工法で宝積寺駅東駐車場に施工。また、先日の令和2年度高根沢町予算特別委員会の中で、みんなの広場雨水対策工事の施工内容についてもプラスチック製雨水貯留槽を使用すると説明がありました。民間企業でも駐車場に設置した施工例があります。

「一般住宅用雨水浸透枮等の補助金について」

プラスチック製雨水貯留槽浸透施設設置についての補助金関係でございますが、あくまでも一般住宅用ですが、補助金の対象となっている市区町村はありました。ただし、目的は雨水対策より上水道の節減が目的でした。また、近隣の宇都宮市を例にとりますと、一般家庭用で従来型の砕石を使用した浸透枮設置は補助の対象となっています。しかし、砕石方式では目詰まりなどが発生しやすいことや雨水を溜める量的な課題点がありますので、プラスチック製の雨水浸透施設については、認知度や貯留量も高い事などから補助金交付の対象への検討中とのことであり、現在はプラスチック製雨水貯留槽浸透槽について補助対象とはなっておりません。

「今後の雨水対策について」

行政としては、実現可能な計画の早期検討と一般住宅についても、雨水流出抑制のための雨水貯留タンクや宅内雨水枮の設置の協力が必要です。

「町への提言として」

局地的豪雨に対応できるよう、定期的な雨水浸透枿の清掃や現状にそった浸透枿の増設、並びに都市整備課及び上下水道課での雨水対策の解決に向けた計画を早期にたてていただきたい。

また、戸別では雨水の流出を抑制するための住宅の用に供する建物への雨水貯留タンクと浸透枿の設置費の補助を望むものです。

以上、建設産業常任委員会の2年間の日常調査報告といたします。

令和2年3月12日

高根沢町議会議長 齋藤武男様

高根沢町建設産業常任委員会

委員長 梅村達美

副委員長 神林秀治

委員 阿久津信男

委員 横須賀忠利

委員 齋藤武男